

更新

事業者名

株式会社鶴屋百貨店

<2030年のSDGs達成に向けた経営方針と目指す姿>

社訓に「世界が全体幸福」になるよう念願し努力する」を掲げ、「お客様に幸福な体験をご提供する事」を企業ミッションとする弊社では、「地球と共に」「お客様と共に」「社員と共に」「地域社会と共に」の4つの視点でSDGsの17のGOALから9つのGOALを重点的な取り組みとして掲げ、それぞれに関する17以上のKPIを設定し、誰ひとり取り残さない、持続可能な地域づくりを目指して「令和時代にふさわしいライフスタイルの提案」を行います。

<SDGsに関する重点的な取組み及び指標>

三側面 (分野に☑)	SDGsに関する重点的な取組み	指標 (更新時に向けた数値目標)
☒ 環境 ☒ 社会 ☐ 経済	GOAL7クリーンエネルギーとGOAL13気候変動への取組みとして県が掲げる排出CO2ゼロの達成に向け協働して取り組みます。	・CO2実質削減 2023年度実質削減率39.8%を達成し、今後も引き続き削減への取組を実施
☒ 環境 ☐ 社会 ☐ 経済	GOAL14 海の豊かさを守るため、「くまもと海洋プラスチックごみ『ゼロ』推進」の取組みと連携し廃棄プラスチックゼロを目指します。	・廃棄プラスチックリサイクル率 毎年100%維持継続
☐ 環境 ☐ 社会 ☒ 経済	GOAL12 持続可能な生産消費形態を確保するため食品ロスゼロを目指します。	・食品廃棄総重量削減 2026年度末までに5%(2023年比)削減を目標とし、生ごみ100%リサイクルを目指す
☐ 環境 ☐ 社会 ☒ 経済	GOAL12 持続可能な生産消費形態を確保するためエンカル(環境・人権・労働・経済に配慮した)商品の充実を図ります。	・鶴屋SDGsウィーク及び友の会によるSDGsプログラム 今後も毎年継続実施
☐ 環境 ☒ 社会 ☐ 経済	GOAL5 ジェンダー平等を達成するために管理職の女性の割合を増加させます。	・管理職に占める女性の割合 2026年3月までに25%以上にする
☐ 環境 ☐ 社会 ☒ 経済	GOAL8 育児休業、年休取得等働き方の可視化による総労働時間の削減に取り組みます。	・男性の育児休暇取得率 今後も毎年100%を維持継続
☐ 環境 ☒ 社会 ☐ 経済	GOAL4 質の高い教育をみんなに 貢献するために「公益財団法人鶴友奨学会」を設立し高校・高専・大学進学者への奨学金を提供します。	・鶴友奨学会 今後も毎年20人程度に提供 ・新たに養護施設の入所者を対象とした進学奨学金 2024年開始、以降毎年実施

<パートナーシップ>

・排出CO2ゼロ及び廃棄プラスチックゼロは、一企業の努力では限界があることから、熊本県や業界団体との連携し、制度設計や補助事業を期待して取り組んでいきます。
・SDGs関連商品の充実には取引先の協力が不可欠であり、気運の醸成を図ると共に、これらを積極的に手にしていただけるよう消費者の意識の高まりも必要と考えています。

・「SDGsに関する重点的な取組み」には環境・社会・経済の三側面の全てについて、重点的な取組みを記載してください。なお、取組みが複数の分野に該当する場合は、それぞれの分野にチェックを入れてください。
・「指標(更新時に向けた数値目標)」には、それぞれの取組みに対する「目指す姿」の実現を念頭に、更新時までの数値目標を記載してください。
・「パートナーシップ」には、企業やNPO法人、行政など関係機関との連携を記載してください。

<SDGsに関するこれまでの重点的な取組み及び指標に係る進捗状況>

三側面 (分野に☑)	取組みの状況	前期の指標	実績
☒ 環境 ☒ 社会 ☐ 経済	GOAL7クリーンエネルギーとGOAL13気候変動への取組みとして県が掲げる排出CO2ゼロの達成に向け協働して取り組みます。 →削減は概ね達成できました。	2030年までにCO2実質削減40% (2013年比)を目指し段階的に削減する。	削減率39.8% (2023年度末現在)
☒ 環境 ☐ 社会 ☐ 経済	GOAL14 海の豊かさを守るため、「くまもと海洋プラスチックごみ『ゼロ』推進」の取組みと連携し廃棄プラスチックゼロを目指します。 →廃棄プラスチックについては、2021年から毎年継続してリサイクル率100%を達成しています。	2023年までに生分解材・非プラ材への転換率及びプラスチックリサイクル率を向上させる。	・廃プラリサイクル率100%達成 ・レジ袋をバイオソフトに転換、有料化を図り削減率は重量ベースで85%減(2021年比)
☐ 環境 ☐ 社会 ☒ 経済	GOAL12 持続可能な生産消費形態を確保するため食品ロスゼロを目指します。 →これを実現すべく、2023年度には、データ管理のクラウド化を行い、店舗ごとの品目別月別廃棄重量の把握と分析を開始しました。	2023年までに食料廃棄総重量を大幅に削減する。	今後具体的な削減を目指すために必要な基準となるデータを得ることができた。
☐ 環境 ☐ 社会 ☒ 経済	GOAL12 持続可能な生産消費形態を確保するためエンカル(環境・人権・労働・経済に配慮した)商品の充実を図ります。 →2023年度から毎年3月と9月に鶴屋SDGsウィークを開始した。これに伴い、関連商品の充実を図ることができました。	2023年までにエンカル商品の拡充を図る。	2023年3月から半年に1回鶴屋SDGsウィークを開催。関連売場でエンカル商品の編集陳列やイベントなどを実施。広告上は、関連商品15点、関連企画11本を掲載。
☐ 環境 ☒ 社会 ☐ 経済	GOAL5 ジェンダー平等を達成するために管理職の女性の割合を増加させます。 →未達のため、2024年4月策定の女性活躍推進法・次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画にて再度2029年度末までに管理職に占める女性の割合を30%以上にするという目標を掲げました。	管理職に占める女性の割合を2024年3月までに30%以上 (2019.5.1行動計画策定)	女性管理職比率20.3%
☐ 環境 ☐ 社会 ☒ 経済	GOAL8 育児休業、年休取得等働き方の可視化による総労働時間の削減に取り組みます。	2023年3月までに男性の育児休暇取得毎年1人以上、女性90%維持(2018.4次世代育成支援計画)	男性2名取得 (取得率100%) 女性全員取得100%
☐ 環境 ☒ 社会 ☐ 経済	GOAL4 質の高い教育をみんなに 貢献するために「公益財団法人鶴友奨学会」を設立し高校・高専・大学進学者への奨学金を提供しています。 →2024年3月に50周年を迎えたのを機に、新たに広く県内企業等からの寄付を募り充実した制度としていくこととしました。	2023年までに毎年20人程度に奨学金を提供する。	2021年22名 2022年23名 2023年22名 2024年20名

・「取組みの状況」には、前回登録申請した際の重点的な取組みの実施状況や指標の達成状況を記載してください。指標が未達成の場合は、その理由等も記載してください。